

本 会 記 事

1. 昭和50年度総会ならびに研究発表会

四国植物防疫研究協議会の昭和50年度総会および研究発表会は、約 130名が参加して11月18日松山市えひめ共済会館で開催された。

(1) 総 会

午前 9 時 30 分から開会され、昭和49年度会務報告が承認されたのち、昭和50年度事業計画ならびに予算が上程され、原案どおり承認されました。

(2) 協 議

午前10時30分から12時まで、本年度異常発生した病害虫、オンシツコナジラミの発生状況、果樹のカメムシ類の発生と被害、ばか苗病およびシングレセンチュウの発生と種子消毒、薬剤耐性菌および薬剤抵抗性害虫発生の現状および農薬安全使用基準と薬剤防除の現状について各県より報告していただき、意見を交換しました。

(3) 研究発表

13時から17時まで、つぎの課題の研究発表が行われた。

古谷真二：キキョウ葉枯れ病の発生とその病原菌の諸性質

上田進・別宮岩義・高橋晋・南条治彦：麦赤かび病に対するホーマイ、ベンレートTなどの効果について

山本辰夫・小阪和彦：イネシングレセンチュウと黒点米

矢野仁・都崎芳久・山下勝男：PCNB施用後稲に矮化症状が表われた土壌におけるPCNBとその分解産物について

中筋房夫：イネ吸穂性カメムシの防除 I. 調査の目的と方法

土田健・草川顕一・高田隆男・中筋房夫：イネ吸穂性カメムシの防除 II. 早期稲での防除

黒原春男・野津孝康・中筋房夫：イネ吸穂性カメムシの防除 III. 普通期稲での防除

佐々木善隆・尾崎幸三郎：ニカメイチュウの有機りん剤抵抗性について

別宮岩義・高橋晋・吉岡幸治郎・松本益美：愛媛県東予地方のニカメイチュウ多発地帯における防除薬剤について

野口義弘・谷本温暉：ケラの幼虫令期間および殺虫剤の感受性

小山光男・若村定男・滝川昇・釜野静也・岡田齊夫・三田久男・岡田忠虎・平井一男：合成性フェロモンとウイルスを組合せたハスモンヨトウの防除

石渡武敏・浅野昌司：フェロコンの「ナシヒメシンクイ」誘引効果とその影響について

亀井正治・浅野昌司：ツノロウムシの産卵刺戟要因について

2. 明年度総会

昭和50年度の本会総会は、今秋香川県において開催の予定です。